



夢の卵を育てましょう。

学校長 横山 豊

2006年の本校の文化講演会に、当時、東京大学特別名誉教授で

あられた小柴昌俊先生をお招きし、生徒達とお話を伺ったことがありました。

小柴先生は日本の誇る天才物理学者で、自ら設計・監督したカムイオカンデにより、1987年に史上初めてニュートリノの観測に成功。2002年には、日本人として9人目となるノーベル物理学賞を受賞された方です。

その当時、東京大学理科II類に、本校のある卒業生が在籍していました。その生徒が後日私に、「どうして声をかけてくれなかったんですか」と言いました。つまり東京から一時帰郷してでも先生のお話を聞きたかったというのです。実は、全国から引っ張りだこなので大学にもあまりいらっしゃらず、加えてご高齢だということもあり、東京大学に在籍している学生でも講義を聞く機会はほとんど無くなっていたのです。さらに彼は小柴先生と同じ物理学の専攻だったので、まさに憧れであり、神様のような存在だったそうです。

さてその講演会で、小柴先生は本校の生徒たちのために素晴らしい話をいくつもしてくださいましたが、その中で特に印象に残った話を1つ紹介します。これは大学院の学生が先生の研究室に入ってくると必ずする話だそうです。口調のままに再現してみましょう。

「あなた方ね、これからの一生の間に、これをやりたい、やり遂げたい、あるいはこれを理解したい、なんかそういう目標になるタマゴを3つか4つ、いつも大事に持っていてなさい。するとね、どういいういことがあるか。あなた方、いまインターネットとか何かを使っている人もいるかもしれないけれども、今の世界にはいろいろな情報が溢れている。そうすると、いったいどの情報を取り入れたらいいのかということがわからないわけだ。だけれども、自分がいつかはやりたいと思っている目標を3つか4つ、いつも持っているとな、ある情報を見たときに、『あ、この情報、これを使えば私のこのタマゴは孵すことができるかもしれない』あるいは、『こういうことをやられちゃったらこのタ

マゴを孵しても意味がないな。じゃほかのタマゴと取り替えよう』といったふうに、自分の必要な情報というものを選んで出すことができるわけです。」

このお話の中で、特に大切なのは、「3つか4つ、いつも持っている」というところです。皆さんには、それぞれ夢があることと思います。宇宙飛行士になりたい、医者になりたい、弁護士になりたい、映画監督になりたい、教育者になりたい…など様々でしょう。そして皆さんは、鶯谷中学・高等学校に入学し、それぞれの夢の実現のために日々努力を続けています。ぜひその第一の目標を現実のものとするために全力で勉強して、目指す学部(学科)のある大学に行きましょう。

そしてそれだけではなく、小柴先生の言葉を参考に、他のいくつかの夢の卵も同時に持って温めていきましょう。先生がおっしゃったように、それを持っていると世の中の情報の中からあなたに必要なものを選び出せるからです。そうしてたくさんの情報の支えを得た第2の夢、第3の夢、第4の夢は、いずれは夢ではなく現実のものとなり、皆さんの人生を豊かにしてくれる可能性が大いにあります。人によってはそれが第一の夢以上に大切になり、人生の重点をそちらに移すことになるかもしれません。あるいは第一の夢と融合させて、他人には真似できないような素晴らしい未知の領域に足を踏み出せるかもしれません。

かく言う私も実は、この年になっても孵してみたい夢の卵があと1つあります。心に常に留めているので、すでに情報はたくさん集まっています。

皆さんも夢の卵をいくつも持ち、大切に育て、ぜひ孵してください。

